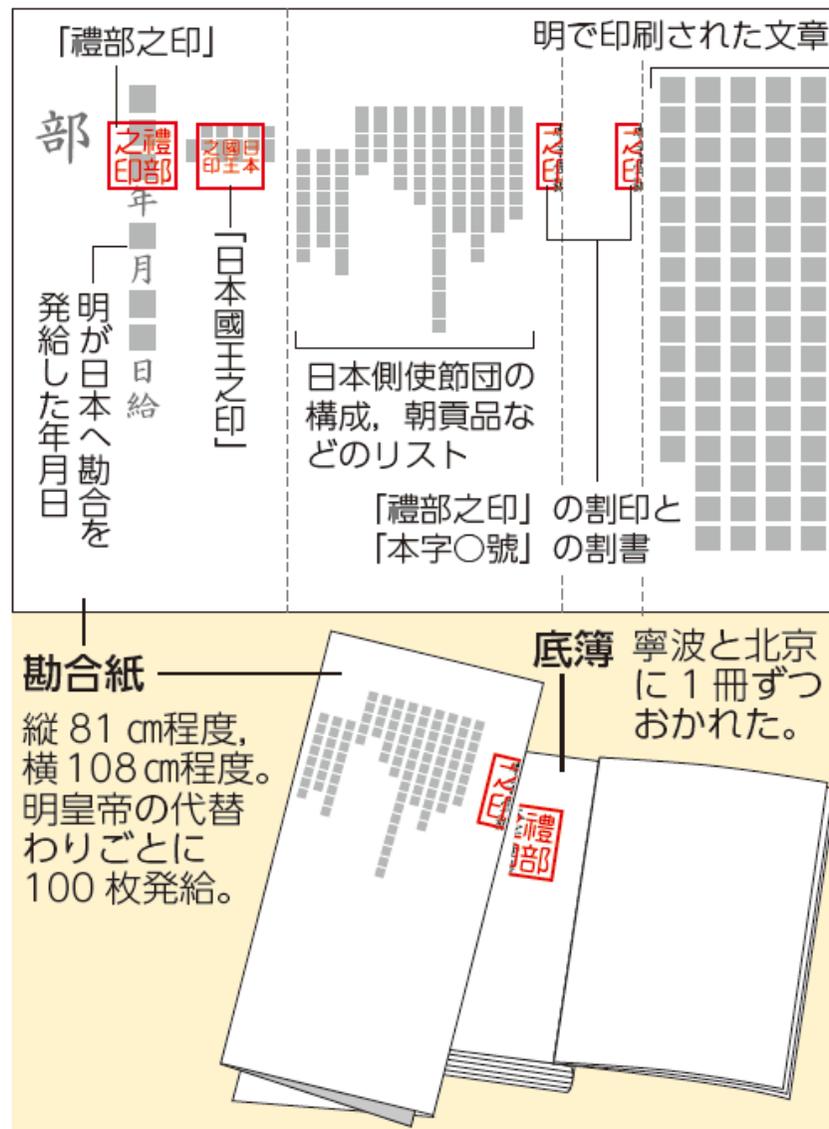


●勘合



図は清代の勘合などから推測されたもの。勘合は、明の外務省にあたる礼（禮）部の印の割印と「本字〇号（號）」（〇には1～100の数字が入る）の割書を入れて日本へ発給され、日本で朝貢品などを書き加えて「日本国王之印」をおしたと考えられる。二つの割印・割書は寧波と北京でそれぞれ底簿と照合された。明から日本への使節は「日字〇号」の割印のある勘合を用いた。（橋本雄『NHKさかのぼり日本史外交篇7 室町“日本国王”と勘合貿易』参考）